

2019年3月期 決算短信補足資料

2019年5月



目次

- I. 決算の概要 P 3
- II. 今後の展開 P 9

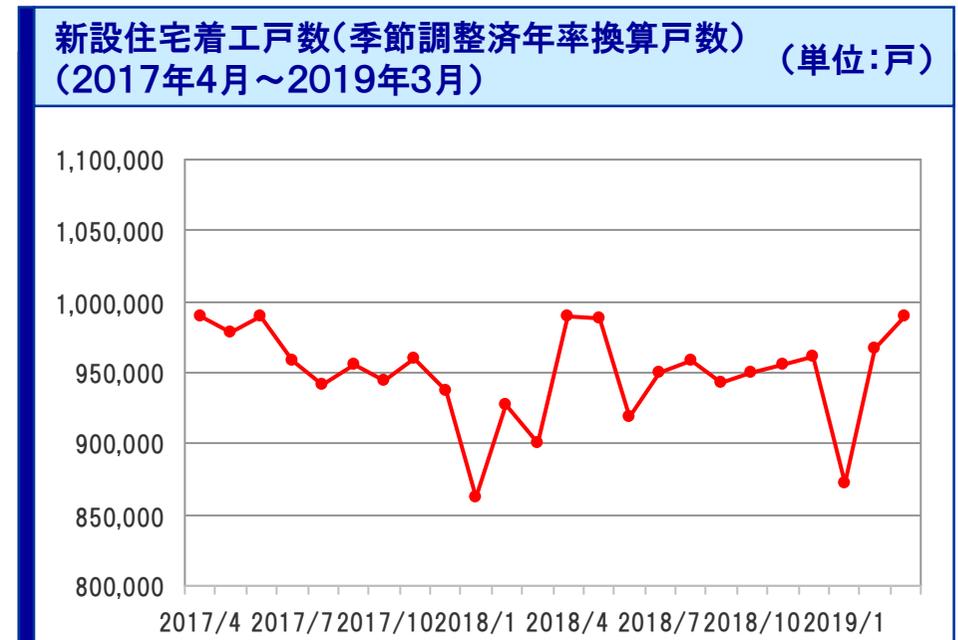
2019年3月期 決算サマリー

- **新規提携が進み、銀行3行、信用組合1組合、JA6組合の合計10機関と契約締結**
- **新規実行件数・金額は、借換を資金用途とする案件が減少したものの、新築や中古案件の増加により前期を上回る**
- **保証債務残高が堅調に推移した結果、営業収益、各利益ともに当初年度計画を上回る**
- **与信関連費用は前年度より増加したものの、代位弁済が引き続き低位で推移したことにより、当初年度計画を下回る**

I . 決算の概要

経済環境

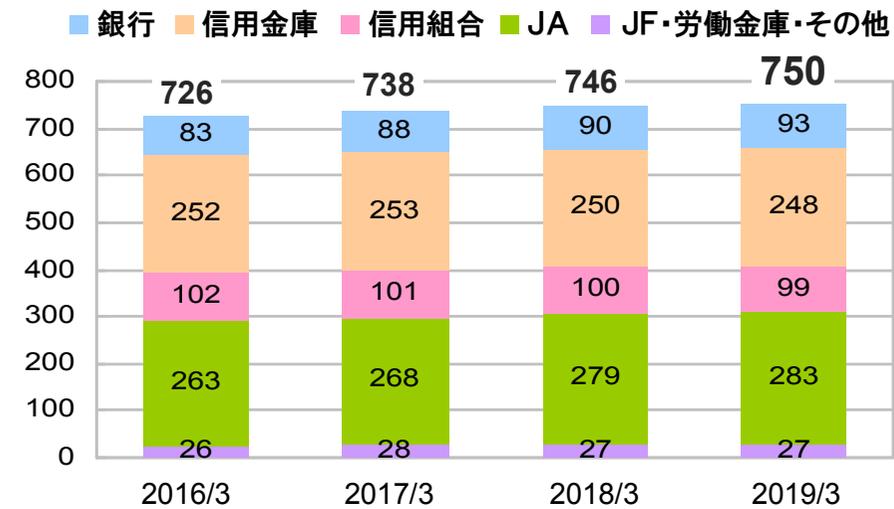
- 海外経済の先行きに不透明感が増すなか、企業収益の改善に足踏みがみられたものの、雇用・所得環境の改善が続き、個人消費も持ち直すなど、景気は回復基調が継続
- 住宅市場については、政府の住宅取得支援策や低水準な住宅ローン金利が継続し、新設住宅着工戸数は前年同期並みで推移
- 住宅ローン市場については、借換需要が引き続き低位で推移するなか、金融機関は新築・中古物件の案件を獲得するため、多様な商品やサービスの提供および推進活動を継続



提携金融機関数の拡大状況

業態別の提携金融機関数の推移

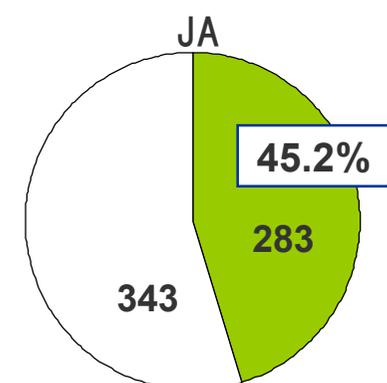
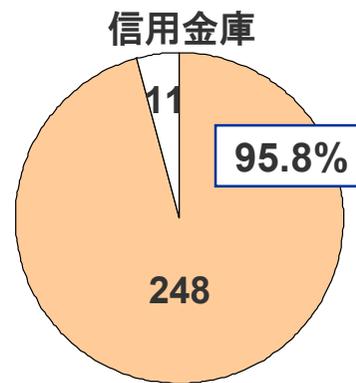
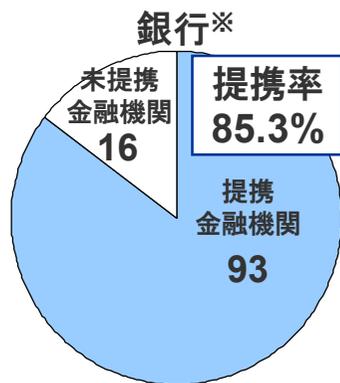
(単位:機関)



- 新規提携増加に努めた結果、2019年3月期において銀行3行、信用組合1組合JA6組合の計10機関と契約締結
提携金融機関数は合併による減少があり750機関となる

業態別の提携シェア

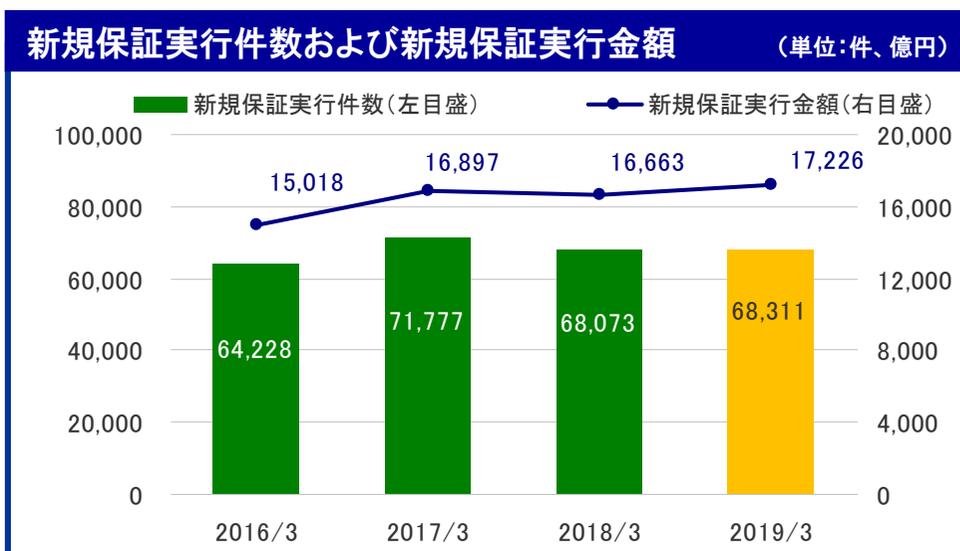
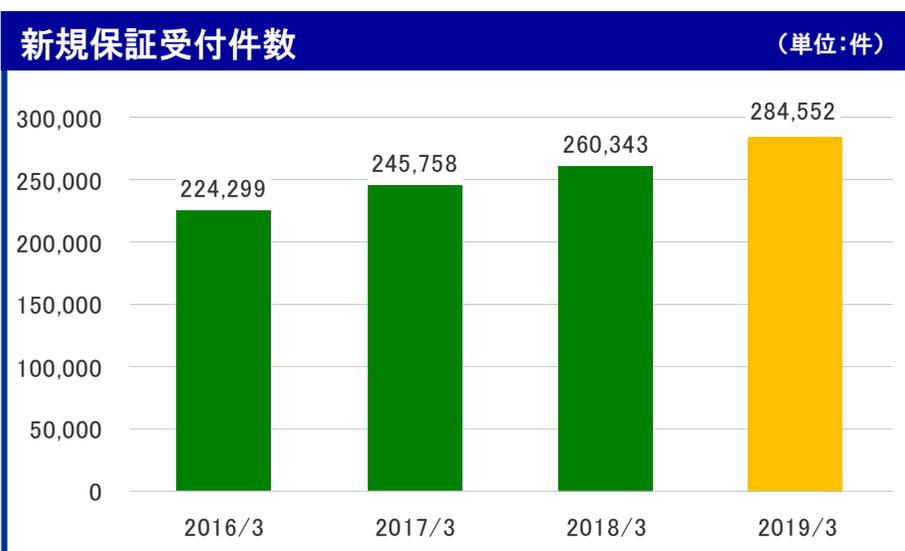
(単位:機関)



※銀行は地方銀行、第二地方銀行、三菱UFJ銀行、三井住友信託銀行、りそな銀行、埼玉りそな銀行、イオン銀行の合計

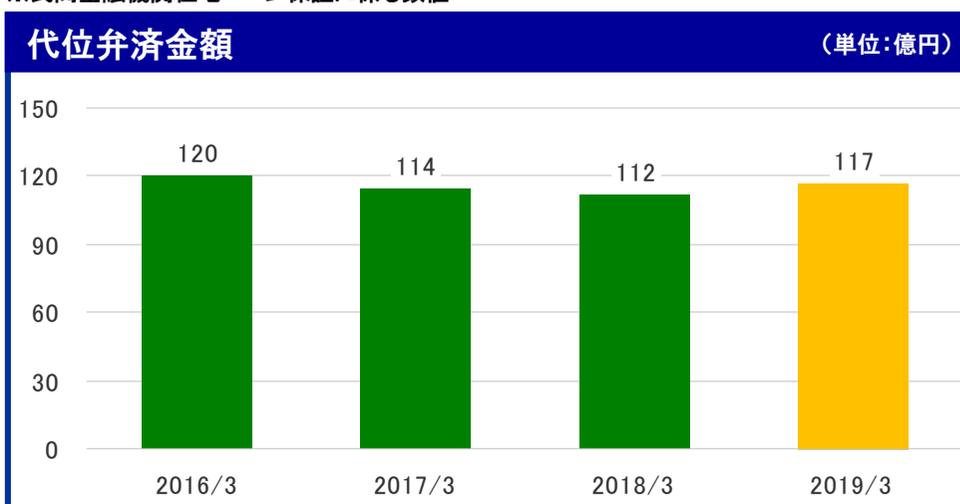
ローン保証業務の拡大状況

● 2019年3月期の新規保証実行件数・金額は、新築・中古案件の増加により前期を上回る



※民間金融機関住宅ローン保証に係る数値

※民間金融機関住宅ローン保証に係る数値



2019年3月期 決算サマリー(P/L)

(単位:百万円)

	18/3期	19/3期	前期比	当初 年度計画
営業収益	39,599	43,204	9.1%	41,750
営業費用	8,419	8,975	6.6%	9,730
うち与信関連費用	2,374	2,727	14.9%	3,240
債務保証損失引当金繰入額	3,090	3,034	▲1.8%	3,740
貸倒引当金繰入額	▲716	▲307	▲57.1%	▲500
うちその他	6,045	6,248	3.3%	6,490
営業利益	31,179	34,229	9.8%	32,020
経常利益	31,974	35,169	10.0%	32,800
特別損益	▲3	▲324	▲8,785.5%	—
当期純利益	22,052	24,134	9.4%	22,600
ROE	20.4%	19.0%	—	18.1%

ポイント

● 営業収益

保証債務残高が堅調に推移したことにより、営業収益は432億4百万円を計上。

● 営業費用

与信関連費用は前期比増加したものの、当初計画を下回り27億27百万円となった。結果、営業費用は89億75百万円を計上。

● 特別損益

減損処理による投資有価証券評価損などにより、特別損失3億24百万円を計上。

● 当期純利益

上記の状況により、当期純利益は241億34百万円を計上。

7 ※ 年度計画は2018年5月7日発表の業績予想数値。なお、2019年3月18日に業績予想の修正を公表済

2019年3月期 決算サマリー(B/S)

	資産の部 (単位:百万円)		
	18/3期末	19/3期末	増減比
流動資産	202,932	188,741	▲7.0%
現金及び預金	184,518	175,742	▲4.8%
求償債権	11,536	12,266	6.3%
有価証券	6,921	6,334	▲8.5%
金銭の信託	5,023	—	—
貸倒引当金	▲5,737	▲6,302	9.9%
固定資産	91,204	132,490	45.3%
投資その他の資産	90,614	131,671	45.3%
投資有価証券	70,716	107,649	52.2%
長期預金	15,000	19,000	26.7%
資産合計	294,137	321,232	9.2%

	負債の部 (単位:百万円)		
	18/3期末	19/3期末	増減比
流動負債	29,351	30,406	3.6%
前受収益	15,578	16,264	4.4%
債務保証損失引当金	6,691	6,453	▲3.6%
固定負債	156,658	163,826	4.6%
長期前受収益	156,597	163,767	4.6%
負債合計	186,010	194,233	4.4%
純資産の部			
株主資本	107,808	126,492	17.3%
評価・換算差額等	194	388	99.4%
純資産合計	108,127	126,998	17.5%
負債・純資産合計	294,137	321,232	9.2%

ポイント

- 資産
社債の購入などにより投資その他の資産が増加。
- 負債
新規保証実行金額が前期を上回り、保証債務残高が増加した結果、「長期前受収益」が増加。

Ⅱ. 今後の展開

2020年3月期の取り組み

		前期の実績	2020年3月期の取り組み
事業規模の 拡大	未提携金融機関 との新規契約締結	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 銀行3行、信用組合1組合、JA6組合と提携 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 引き続き新規提携を推進
	付加価値向上の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ連携やインターネットを活用した申込スキームの提案を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 左記のスキームを導入いただくための提案活動を継続
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 住宅ローン担保証券(RMBS)を購入する新たなスキームを構築 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 住宅ローン保証ノウハウを生かし、事業規模の拡大に取り組む
企業価値の 向上	業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 審査業務のペーパーレス化 ✓ 受付業務の集中化・RPA[※]導入 ✓ ワークフローシステムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ システムを利用した業務効率化による収益性および企業価値の向上に取り組む
事業領域の 拡大	長期的課題への 対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 債権回収会社の子会社化 ✓ AI・ブロックチェーン技術を用いた新たな審査手法の研究を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 債権回収会社の運営体制確立 ✓ AI・ブロックチェーン技術を用いたビジネスモデル構築を目指す

※ RPA(Robotic Process Automation)とは、データ入力や情報収集などの定型的な事務作業をソフトウェアロボットが代行することで、業務を自動化・効率化する仕組みのことです。

業績予想

(単位:百万円)

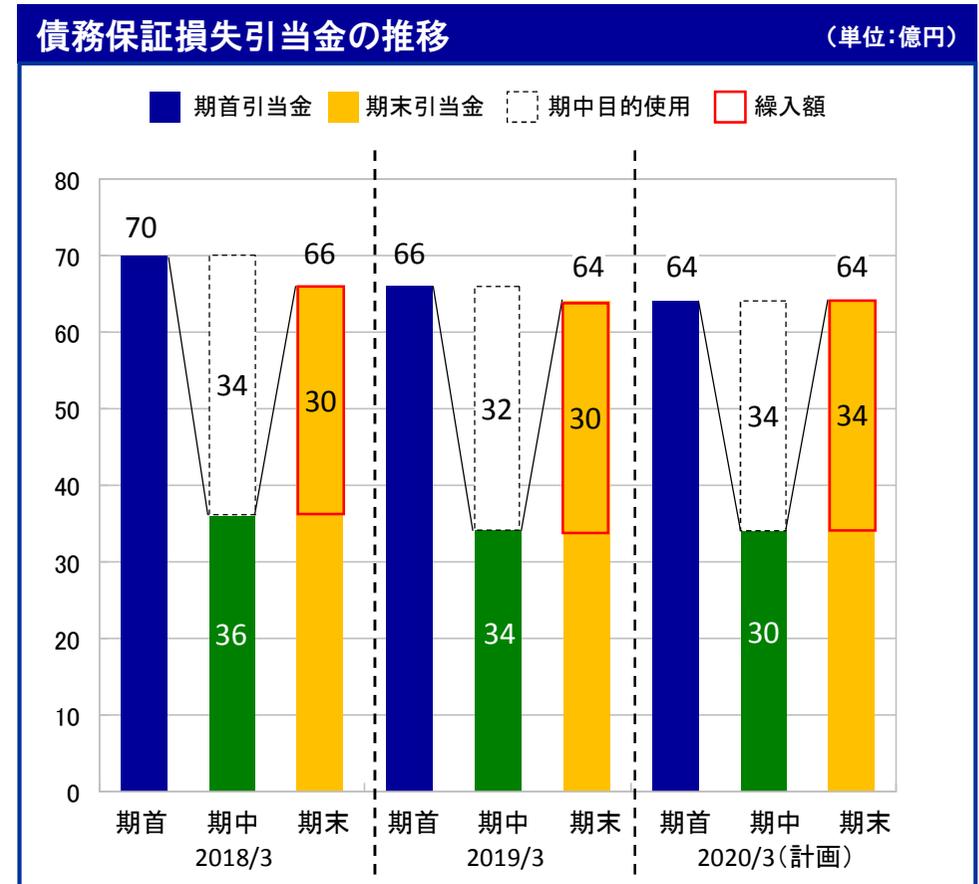
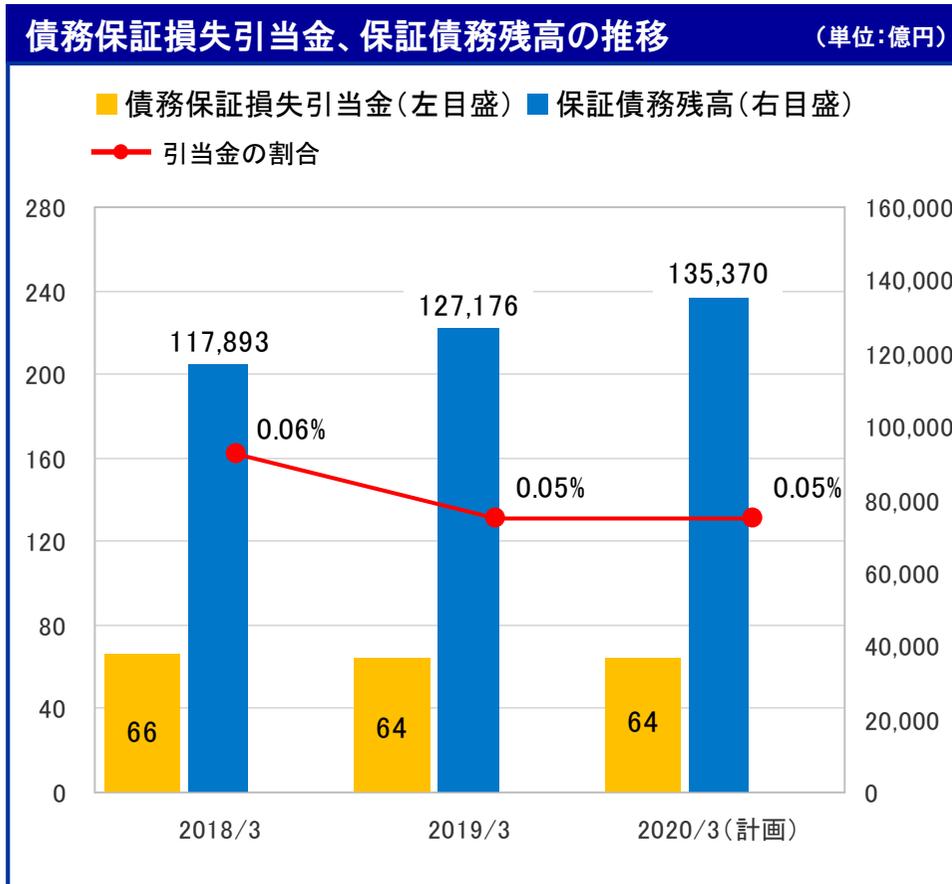
	19/3期	20/3期		前期比
		第2四半期 (累計)予想	通期予想	
営業収益	43,204	17,300	44,700	3.5%
営業費用	8,975	4,850	9,600	7.0%
うち与信関連費用	2,727	1,410	2,900	6.3%
債務保証損失引当金繰入額	3,034	1,660	3,400	12.1%
貸倒引当金繰入額	▲307	▲250	▲500	62.9%
うちその他	6,248	3,440	6,700	7.2%
営業利益	34,229	12,450	35,100	2.5%
経常利益	35,169	12,900	36,100	2.6%
当期純利益	24,134	8,900	24,950	3.4%

業績予想の前提	
保証債務残高	13兆5,370億円
新規保証実行件数	70,000件
代位弁済金額	12,650百万円
求償債権回収	9,500百万円

その他	
ROE	17.2%
配当金(1株当たり)	90円

債務保証損失引当金について

- 保証債務残高に対する引当金の割合は低位に推移
- 2020/3期については、期末に必要な引当金を期首引当金とほぼ同額と見込むことから、繰入額は期中目的使用(「代位弁済金額」－「回収見込額」)に近い金額となる



※ 単位未満を切捨てているため、合計が一致しない場合があります

資本・配当について

強固な財務基盤構築のため内部留保を確保しつつ、継続的な安定配当を実施

配当政策	2019年3月期	2020年3月期 (予想)
当期純利益① (百万円)	24,134	24,950
配当額② (百万円)	5,991	6,190
配当性向	24.8%	24.8%
1株あたり年間配当額	87円	90円

配当還元方針

安定的な配当を実施することにより、
長期保有株主の満足度を高める。

(単位:百万円、倍)

資本の検証	2019年3月期	2020年3月期 (予想)
保証債務残高 ①	12兆7,176億円	13兆5,370億円
デフォルト率 (PD) ②	0.20%	0.20%
毀損率 (LGD) ③	33.0%	33.0%
損失額 (EL) ①×②×③	8,393	8,934
純資産④	126,998	145,000
純資産÷損失額 (EL)	15.1	16.2

(参考) ストレス環境下における検証

2020年3月期 (予想)
13兆5,370億円
0.40%
41.2%
22,308
145,000
6.5

【指標の前提】

- PDは過去最高値である2009年度の数値0.34%を採用し、更に20%のストレスを負荷
- LGDは過去最高値である2004年度の数値を採用

※ デフォルト率: 期初保証債務残高に対する代位弁済金額の割合(2019年3月期以前の10年平均)

※ 毀損率: 代位弁済となった先のうち、物件売却によって回収が出来なかった金額の割合(2019年3月期以前の10年平均)